

組織行動論

Organizational Behavior

香川大学地域マネジメント研究科; 2008年度後期; 基礎科目; 1・2年次; 2単位

八木 陽一郎 (yagi@gms.kagawa-u.ac.jp)

人と組織は企業経営の根幹をなすものであり、それらをいかにマネジメントするかは、どのような時代にあっても経営の基本課題として存在しています。この授業では、経営組織における人間行動に焦点をあて、組織マネジメントの基本を知り、さらには個人の組織行動と組織の力学に影響を及ぼすことのできる実践的な能力の獲得を目指します。

具体的な目標としては、(1)マネジメントに必要な人と組織に関する基礎的な考え方と視点を知り、組織上の問題の原因を分析する力とその解決に必要な判断力・実行力を高めること、(2)人々と協働して創造的な成果を目指そうとするときに発生する課題の構造を理解し、協働によって生み出しえる成果を高める方法を学習することです。これらの目標に共通する点は、全て実践のための学習であるということであり、単に知識を記憶することが目的ではないということです。したがって、学校の教室という制約はありますが、できるかぎり経営の現実の考え方と判断、実際の行動のとりかたを重視します。

■授業の進め方と準備について

授業ではレクチャー以上にケースメソッドによる参加者全員でのディスカッションを重視します。これは、ケースメソッドという授業方法論が、実際の組織問題を教室という情報空間内に仮想的に再現する上で非常に適しているからです。参加者は、この授業を通じて、組織マネジメントにまつわる諸問題に対して、単に理論知識を持つだけではなく、実際に教師とクラスメートという生身の人間を相手に高い臨場感を維持しながら、解決経験を積むことが出来ます。ケースが指定されている授業ではすぐにディスカッションに入るため、指定されたケースや資料を事前によく読み、シラバスに記してある設問に対して自分の考えを用意しておく必要があります。

■前提科目・関連科目

前提科目:特になし

関連科目:特になし

■成績評価

授業へ積極的な参加と発言による貢献度:30%

小レポート:30%(設問が設けられている授業は全て小レポートが課されます⇒下の課題を参照)

期末レポート:40%

■参考文献

ステファン・ロビンス(1997),「組織行動のマネジメント」ダイヤモンド社

■課題

毎回の授業の課題は、よくケースと資料を読み、シラバスにある設問に対して自分なりの考えを用意し、それをA4ワープロ書きで1枚以内の小レポートにまとめ、各授業の開始時に提出することです。やむを得ず欠席の場合は、翌週以降に提出してください(E-mailでの提出は受け付けません)。

これ以外に提出課題として、期末レポートがあります。期末レポートでは、各自が文献調査やフィールドワークを行い、実際の組織経営における人と組織に関連する問題を取り上げ、ショートケースを作成した上で、そのケースに含まれる問題構造を解き明かしながら、解決に向けた方策を提言してください。期末レポートの評価においては、ショートケースにおける記述のリアリティ、提示された問題の明確さ、問題構造の分析における論理性、提言の具体性と問題解決可能性、を主な判断の基準とします。優秀レポートについては、地域マネジメント研究科の正式な教材としてケース化したいと考えています。

■授業計画

セッション1

テーマ:会議の知的生産性

ケース:12人の怒れる男補助資料

設問:上記ケースを事前によく読んでからクラスに集合。事前レポートは不要です。

セッション2

テーマ:集団による意思決定のマネジメント

ケース:ピッグス湾A、キューバ・ミサイル危機

設問:上記ケースを事前によく読んでからクラスに集合。事前レポートは不要です。

セッション3

テーマ:リーダーシップと集団による創造活動①

ケース:メリット株式会社 第1部～第3部

(第4部、第5部、第5部続き、は授業中に配布するので各自で購入する必要はありません)

設問:①8名の新人を用いて設立した新製品開発チームは、どのような条件下におかれていますか。

②彼等はどのような特徴を持つチームとして活動していますか。

③彼らのチームは今後どのようになっていくと考えますか。

セッション4

テーマ:リーダーシップと集団による創造活動②

ケース:もののけ姫と宮崎駿

設問:①スタジオジブリの組織と宮崎監督の仕事ぶりにはどのような特徴がありますか。

②その中でも特に、宮崎監督は、自身と共に仕事をするスタッフやクリエイター達に向けてどのようなコミュニケーションをとっていますか。それはどのようなねらいでなされていると考えますか。

③宮崎監督の仕事の仕方、コミュニケーションの仕方の中で参考となる点がありますか。あるとすればどのような点ですか。ないとすればどのような理由によってですか。

セッション5

テーマ:コーチングによるマネジメント

ケース:特になし

<注意>特に授業の準備は必要ありません

セッション6

テーマ:共振とエスカレーション

ケース:マイクロソフトのウィンドウズNTプロジェクト

設問:①NTプロジェクトの活動の様子にはどのような特徴がありますか。

②カトラーのリーダーシップにはどのような特徴がありますか。

③カトラーがNTプロジェクトに与えた組織条件の特徴はどのようなものでしたか。

④カトラーのリーダーシップの取り方に倫理的な検討を加える必要があるでしょうか。あるとしたらどのような点への検討でしょうか。

セッション7

ケース:認知操作と影響力の構造

教材:単行本 ロバート・チャルディーニ(2007),「影響力の武器(第二版)」誠信書房

設問:①6つの影響力の手法はどのようなものか。具体例(あるいは体験談)をあげてください。

②6つの手法はリーダーシップを發揮する上でどのような意味を持つと考えられますか。

③これらの手法を人が用いる上での倫理的な問題をどのように考えますか。

<注意>上記単行本はケースと同じ扱いとし、事前によく読んでおくことが求められます。

セッション8

最終講義：協働と管理そしてリーダーシップ

<注意>特に授業の準備は必要はありません

■ケースの入手先について

授業で使用するケースについては、全て慶應ビジネススクールのホームページより購入が可能です。
各自で事前に購入して予習を進めて下さい。

<http://www.bookpark.ne.jp/kbs/>